八犬傳犬のさうし
久保田彦作編輯
紅英堂板
柳亭種彦遺稿
梅堂國政畫圖
五十六編下
五十六編上

五十六編上

A524
1

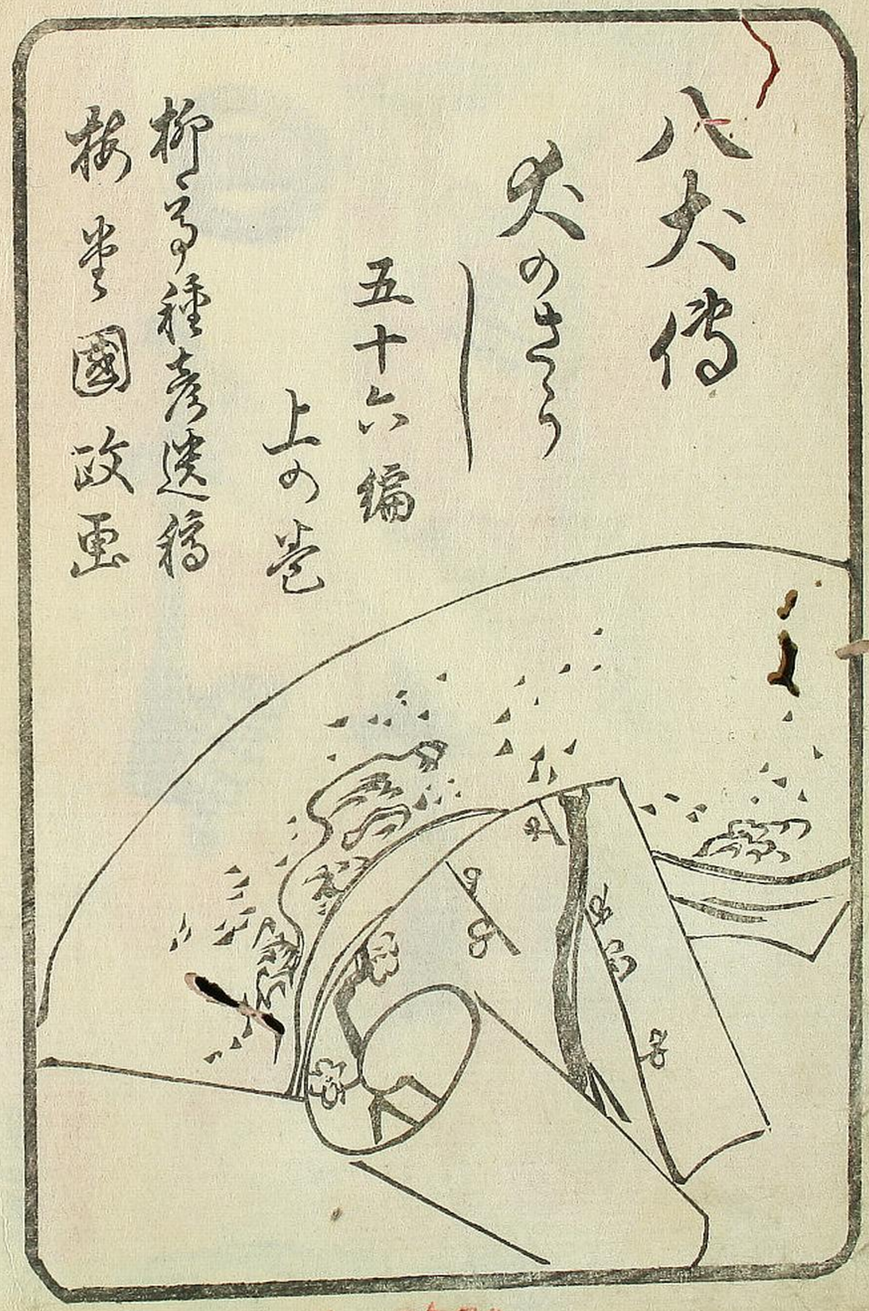
八犬傳

犬のさうし

五十六編

上の巻

柳亭種彦遺稿
柳亭國政画



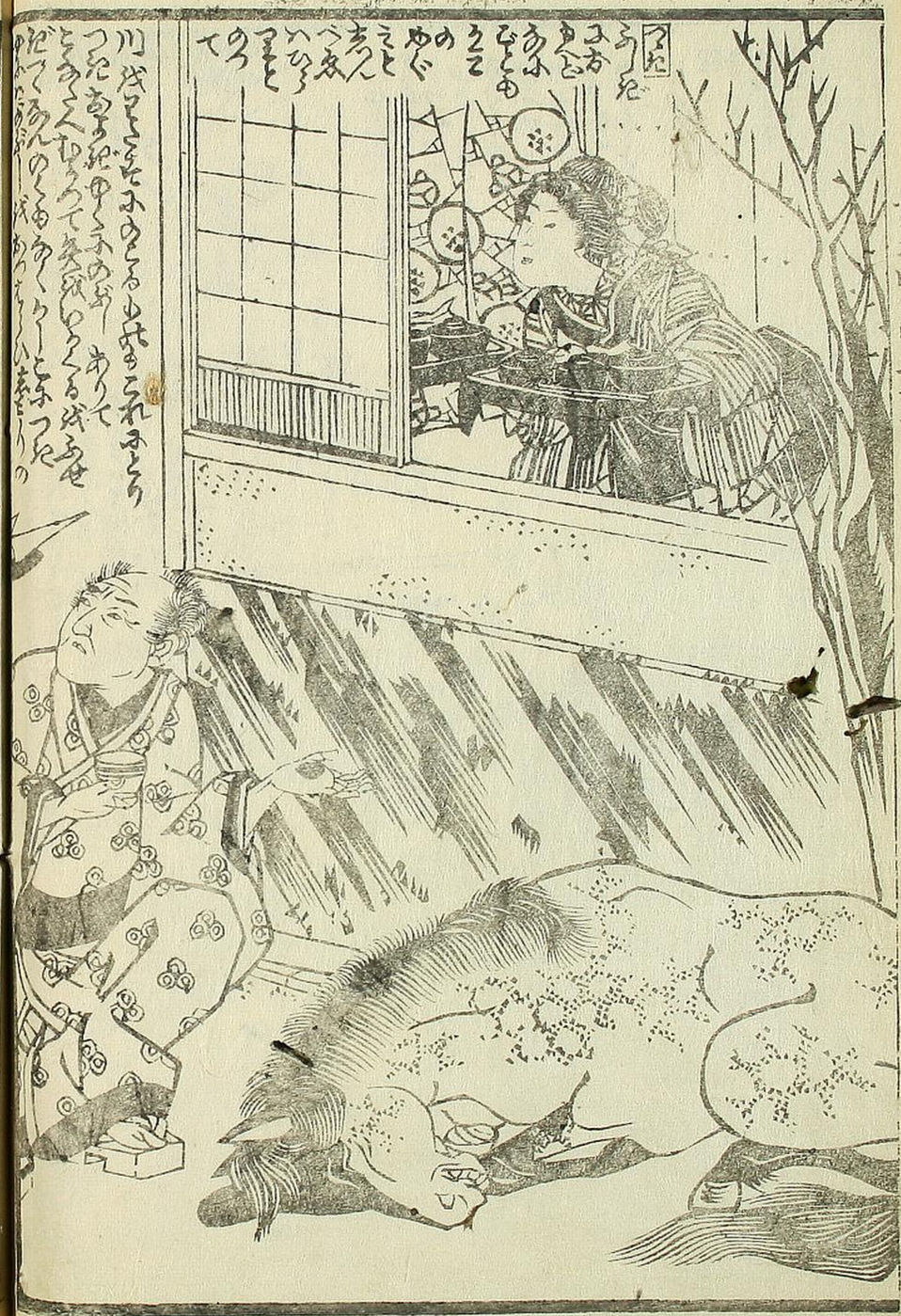
48-7570

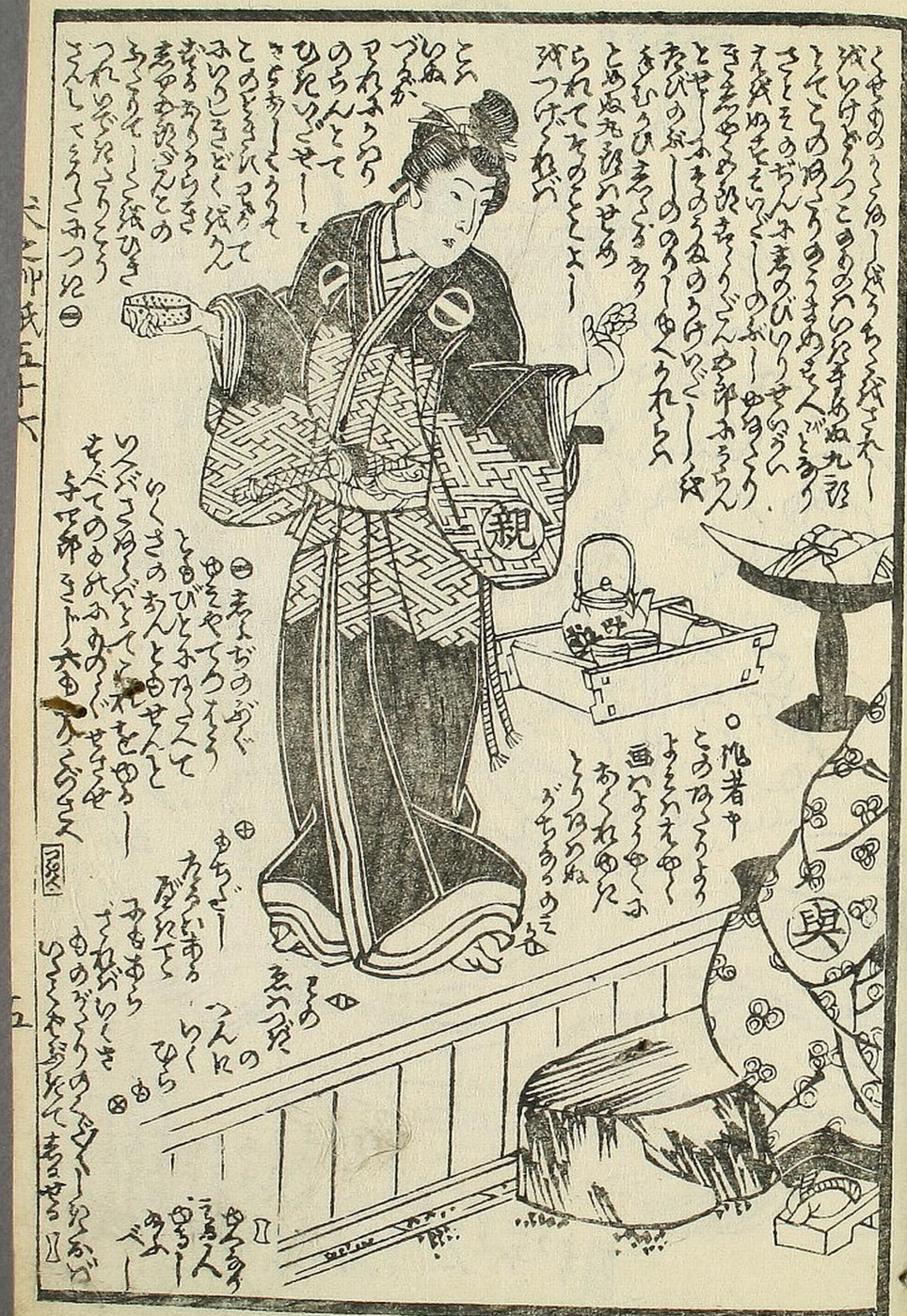
雜の胃八犬傳を修羅場に到て拙しと大正の後の変録に
はなく雖しと雖るのう十分面白く安徐らに先を噛ふの面白
不足三國誌を補ふ為に成る小説小説の軍記の
解するが如く生涯の見解ふてうく角場を無味深
会戦八他出の者べきの所恩ひ長板橋の乱戦の
壁の船軍を海の波久拙五素
ふ里ふ尋ふう以ぐ上紺ふ拙五板の映の巧
楽ふ者ふ刀ふ才の恰る所全ふ如ふ面ふふ一口刀
州ふ子ふ者ふ向の白ふふ軍義を丸で棄ふ者ふ
先聞ふ場形ふ尚ふ者ふ一ふ雜めふふふ欠伸ふ

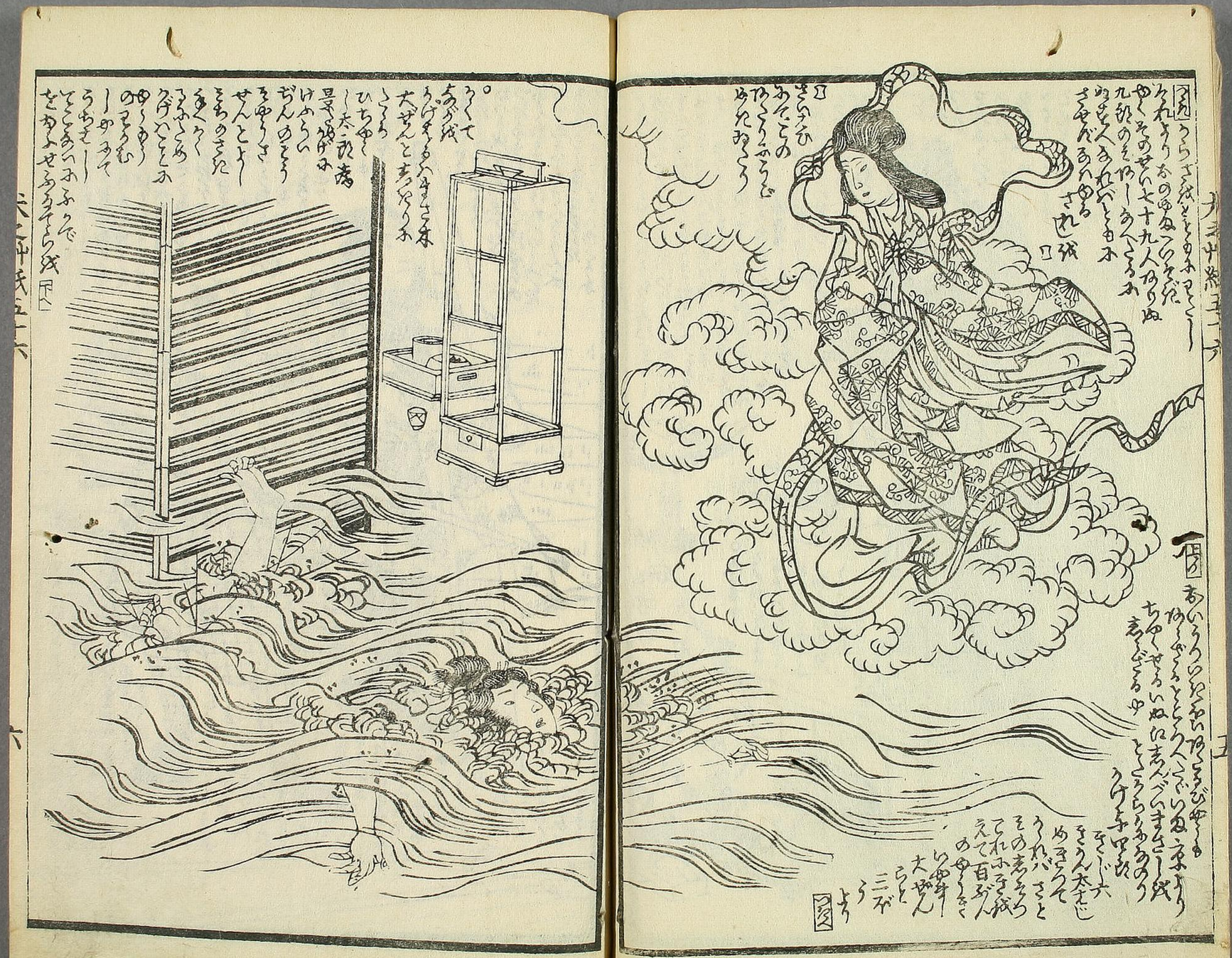
明治十四年三月稿成

読鶯史記

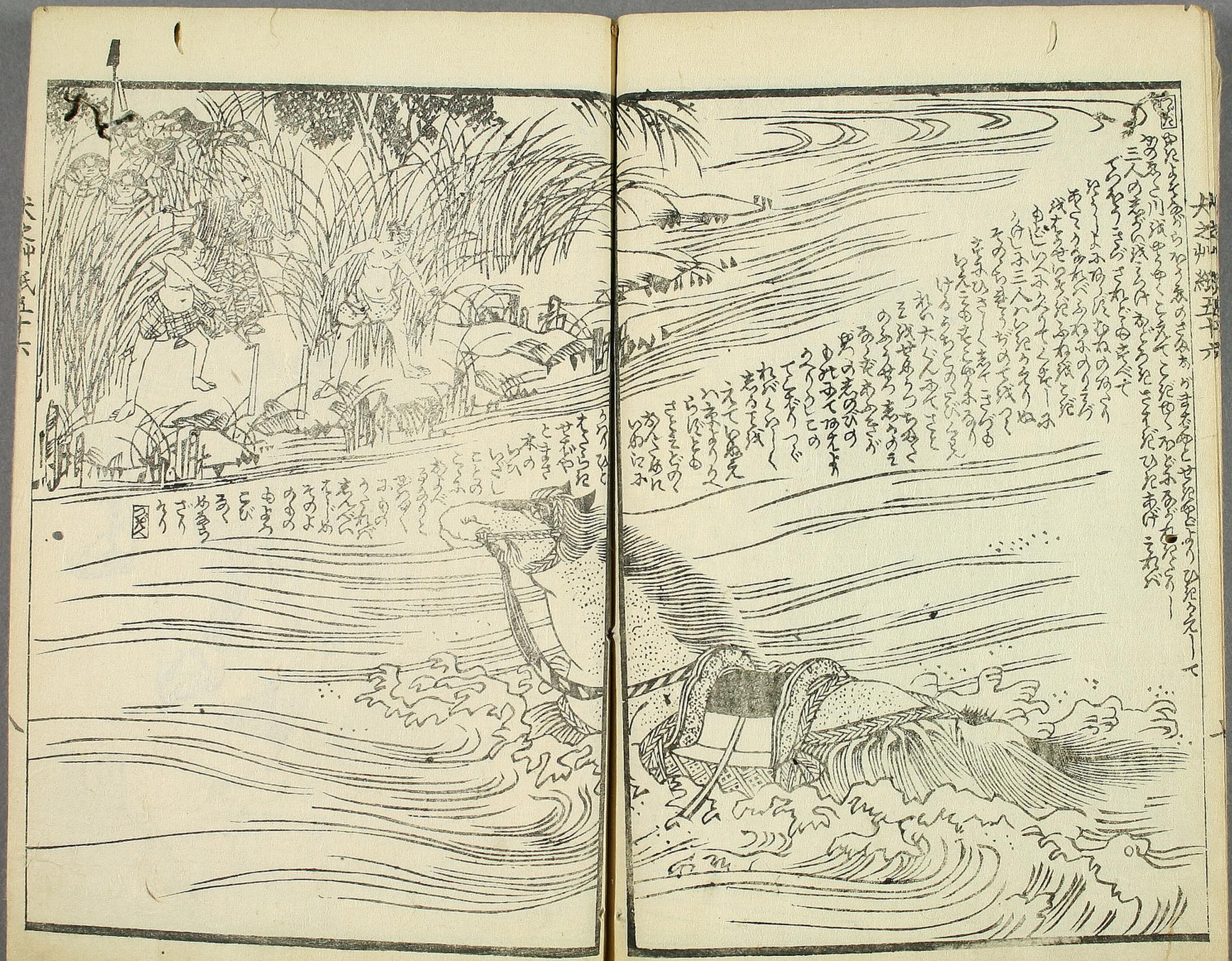
安山とぎ鳩
里見次郎
唐實尭




親
與



親



柳蔭月朝妻　十編　山々亭有人作　梅朝樓國貞画

藪黄鸝八幡不知　十編　山々亭有人作　大尾　錦朝樓芳虎画

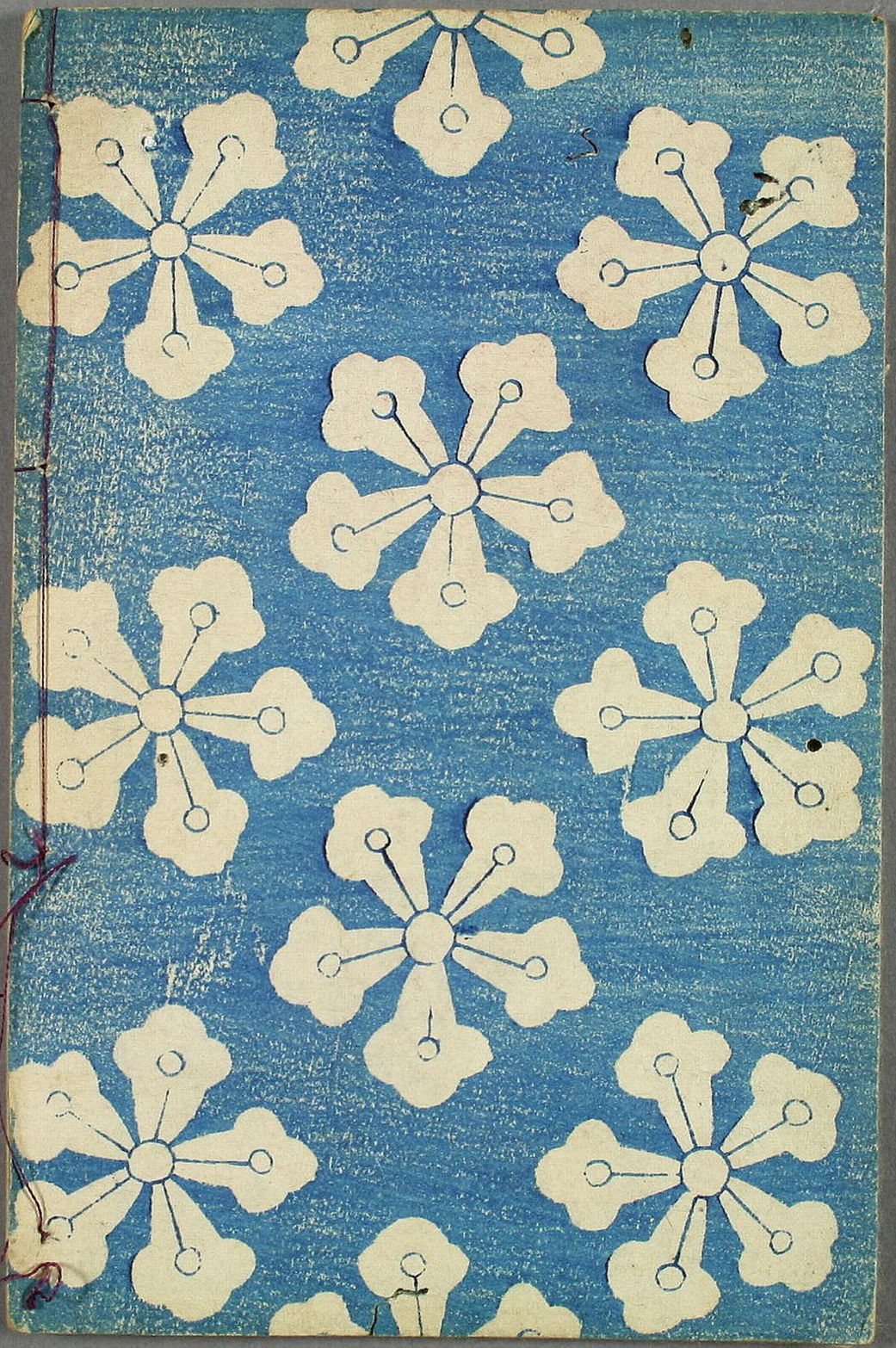
阿玉ヶ池梯月形　五編　爲永春水作　大尾　梅堂國政画

八犬傳犬の双紙　六十　柳亭作　大尾　國政画

小學行儀法　全一冊

本家　實母散

さんぜんさんぐ　中橋南傳馬町東側　ふどんちのみち　十葉堂孝輔製　一切のめ薬



八犬傳犬のさうし

久保田彦作編輯

紅英堂板

柳亭種彦遺稿

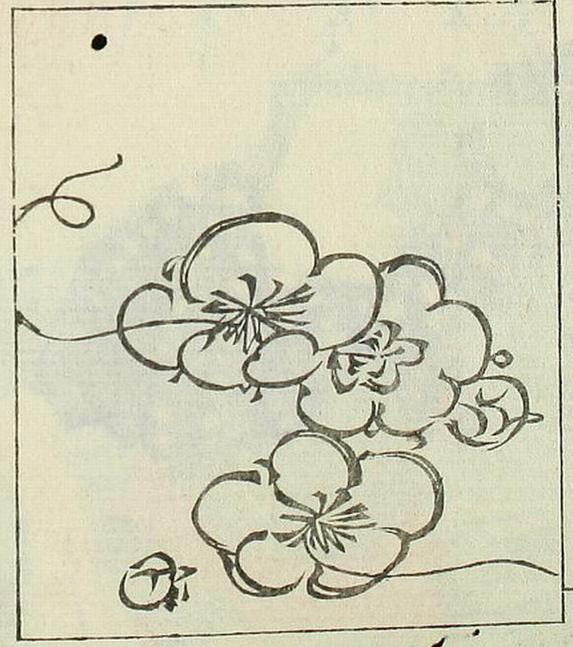
梅堂國政畫圖

五十六編下

A 829
2 上

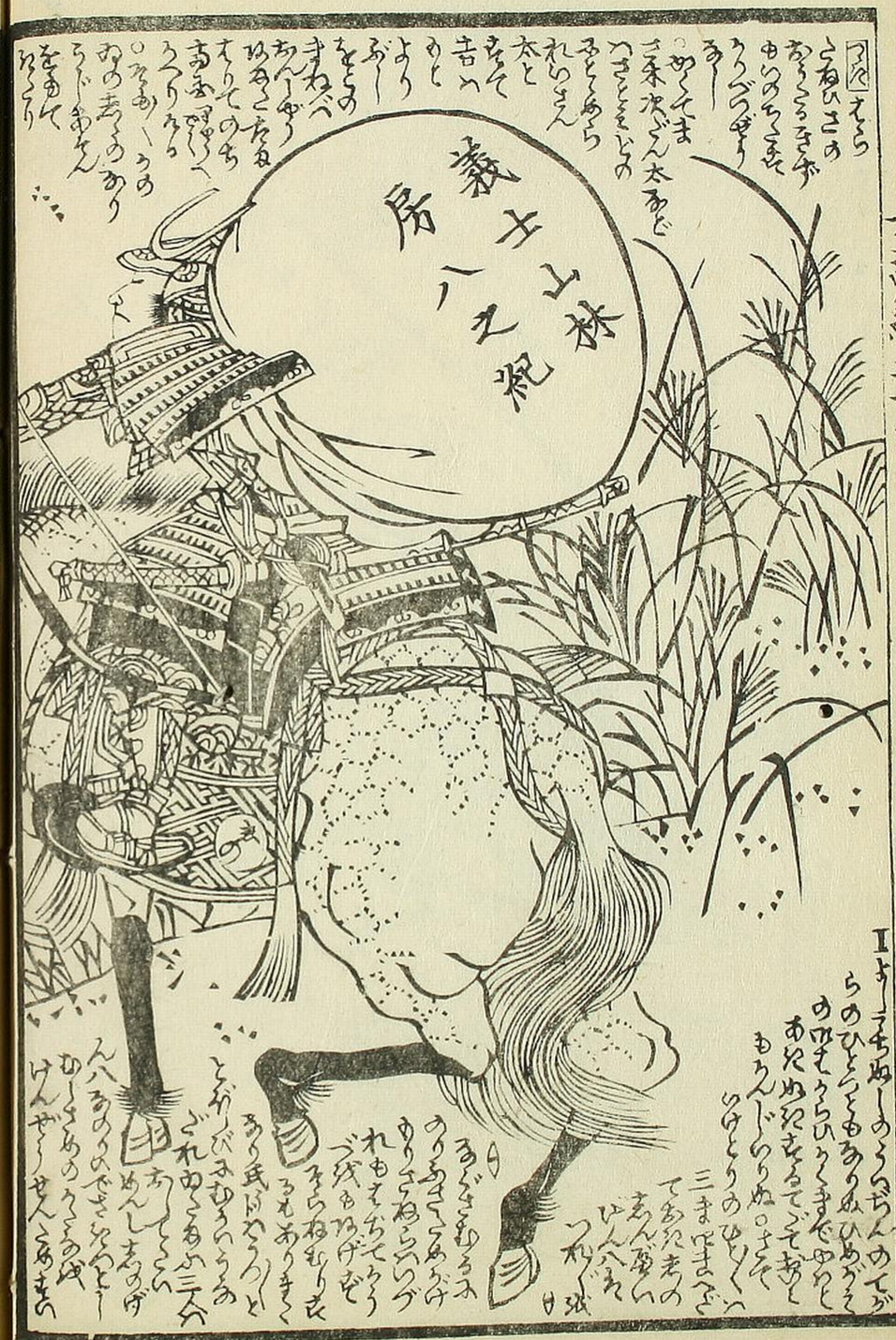
雪梅芳譚　五十六編下

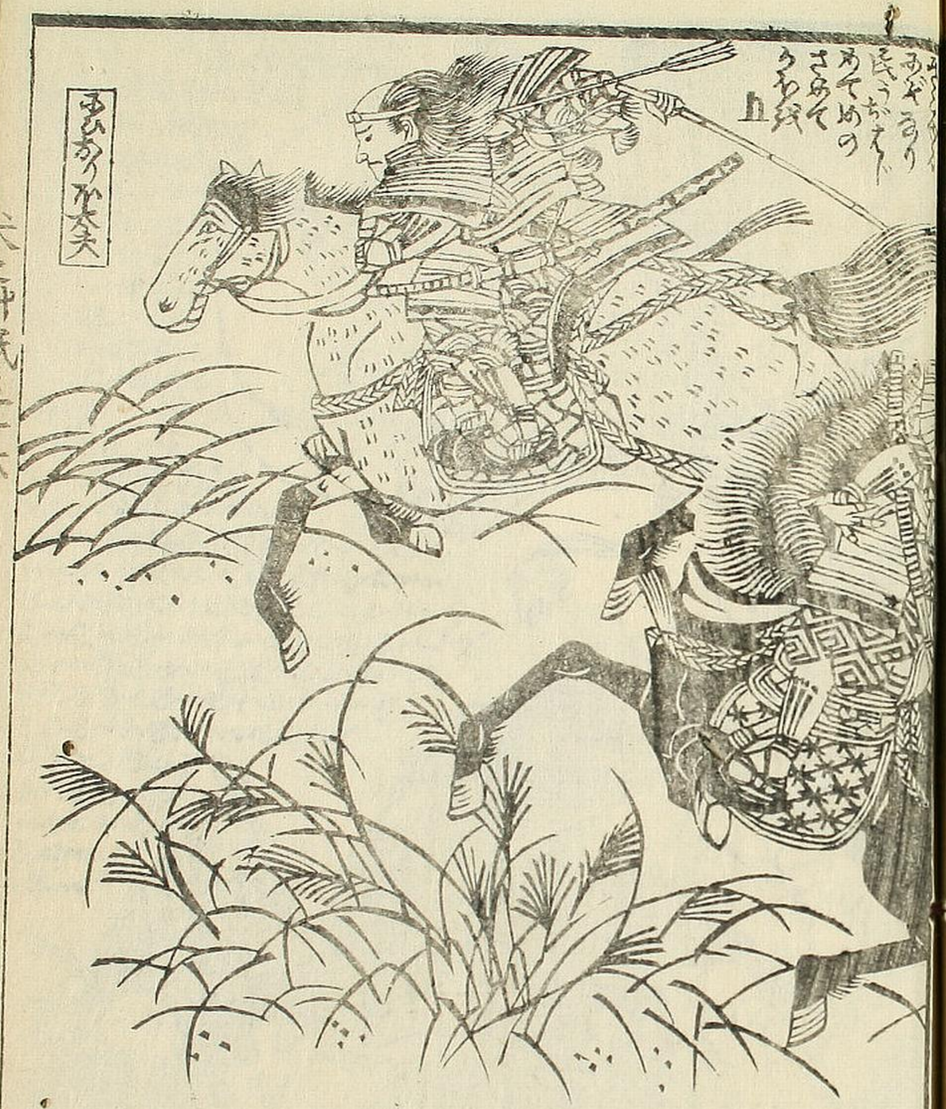
種彦遺稿
玉政岡亟
紅英書樵

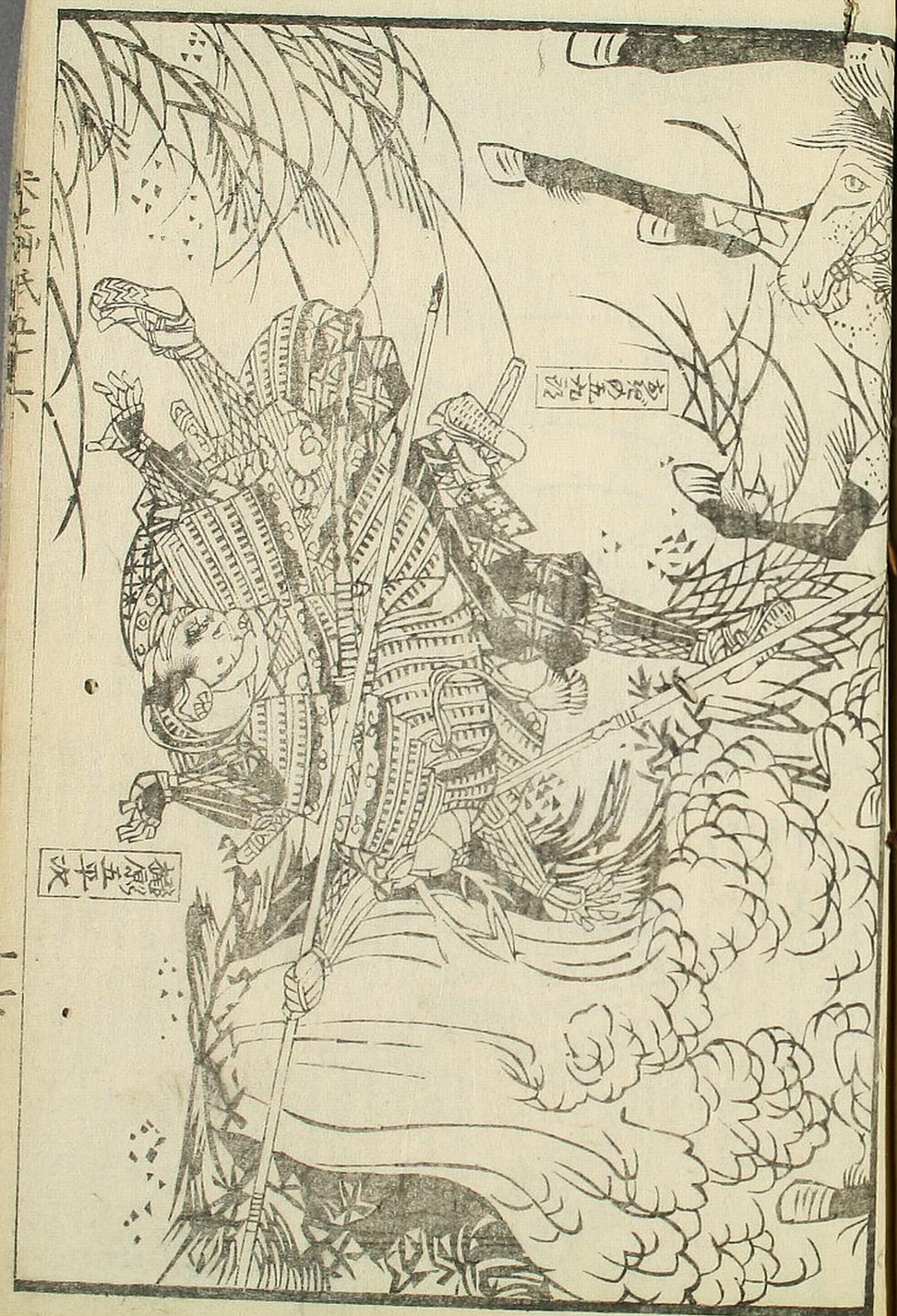


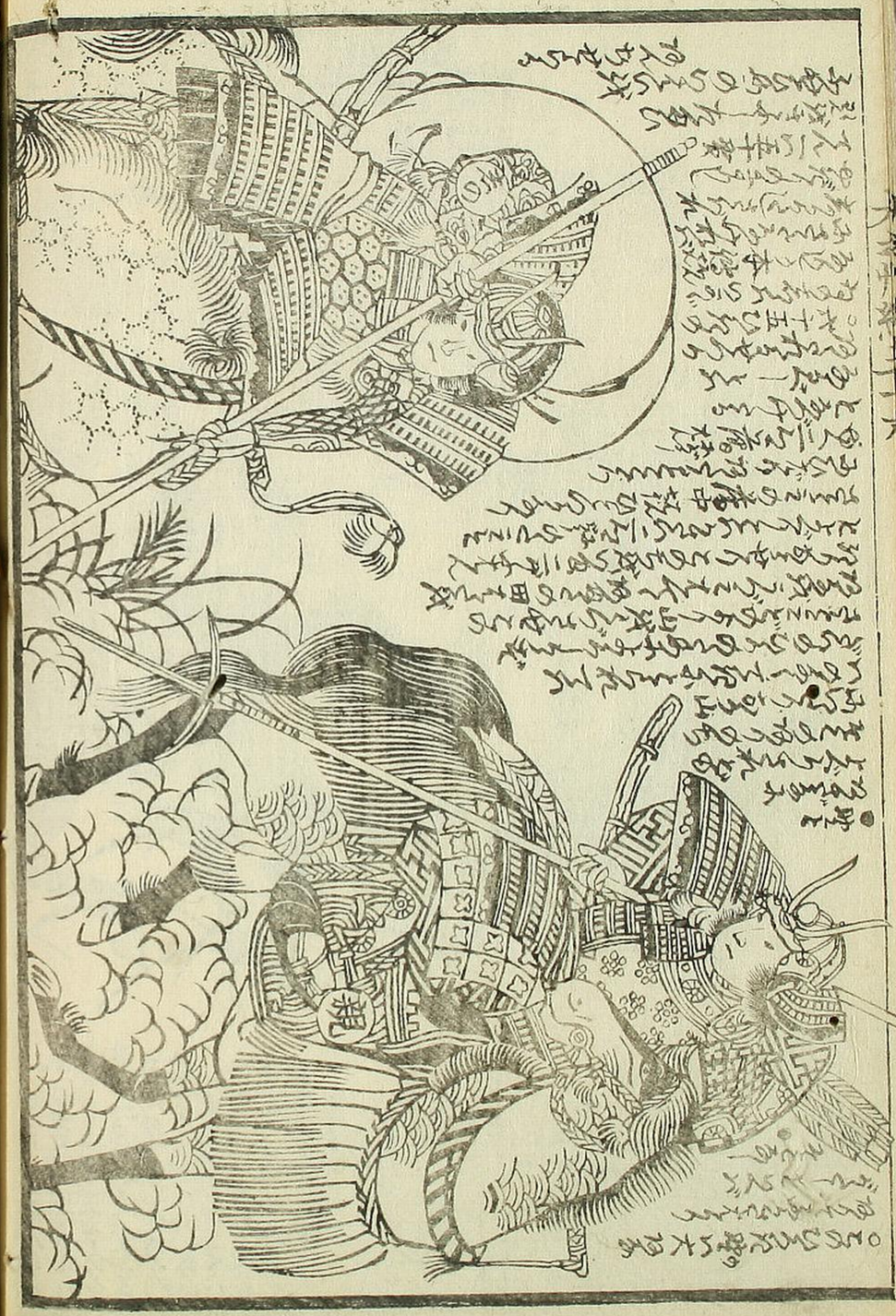
48－7571

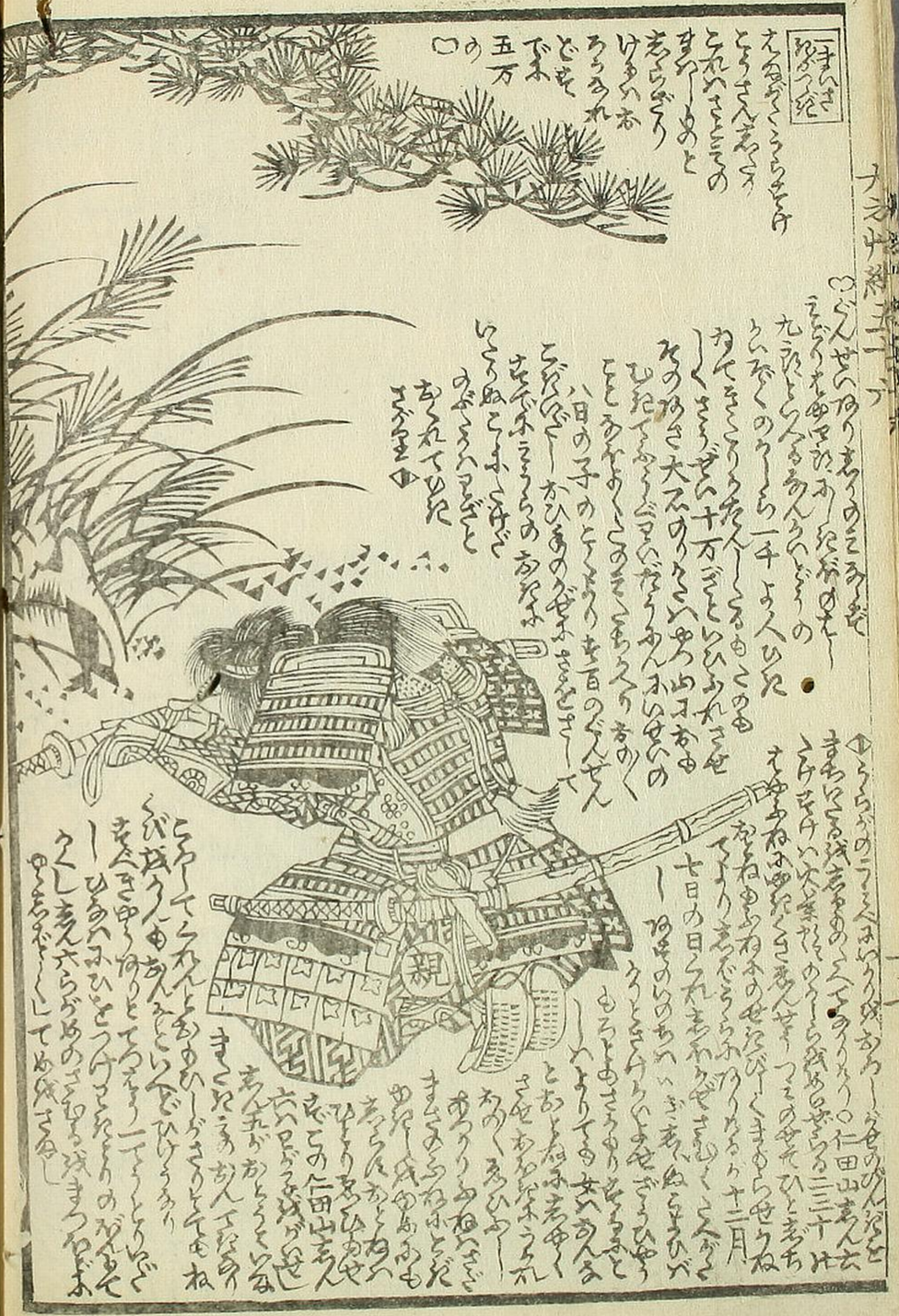
上のよまうじたうのぎこうしろ銭ありのみろくさま
とあり銭とりあり　たるまのえんでつれらも銭
者のへこのようあるこまりそてまろーしてちふ
ゐけさこうさこあるをだの銭つれくをしー
まこうげぎこしまやいくくくひあんのもあ
くつれあせてはるこのらちるまんぐ銭さま
けいぐこんとあんでもそのきぐもこのたあー
ゆあれまのこのうちもあるあのーたらぎけりの
どくこあたのぐくうゆもちもふまんんを銭
せりぐーはるこをふつぐのれゆぐうはまん
ぐ者ぐふぐ銭もゆしつめぐしたたいゆんぐ銭
ようろくびてあんこかあふあちりるぐら
いこくうゆつぐるくこぎんをうこていぐ
たるんこ銭まのるかのむこふせゆあ林
のこゆーじこるらんこせいぐいこのうる
せここあこさんぐちのつたーこそゆ銭
みろふぬゆをこるまぐてこくびの
いくこゆんつれこあんこのゆこ
ゆまひこのあこ銭あてこくよー
つぐこにものぐこうそのむりーゆこ
ハふこのあこゆこのせいぐんー
こゆふいくこれ。でゆせいぐひつ！
のあんたゆんこたれこれいこの
ちぐまこるこゆもこうこてこう
のあんぐんーせんこゆくて
くここしぐこよこたし
こうはあくこんこあ
こをかより


義士山林
八九郎



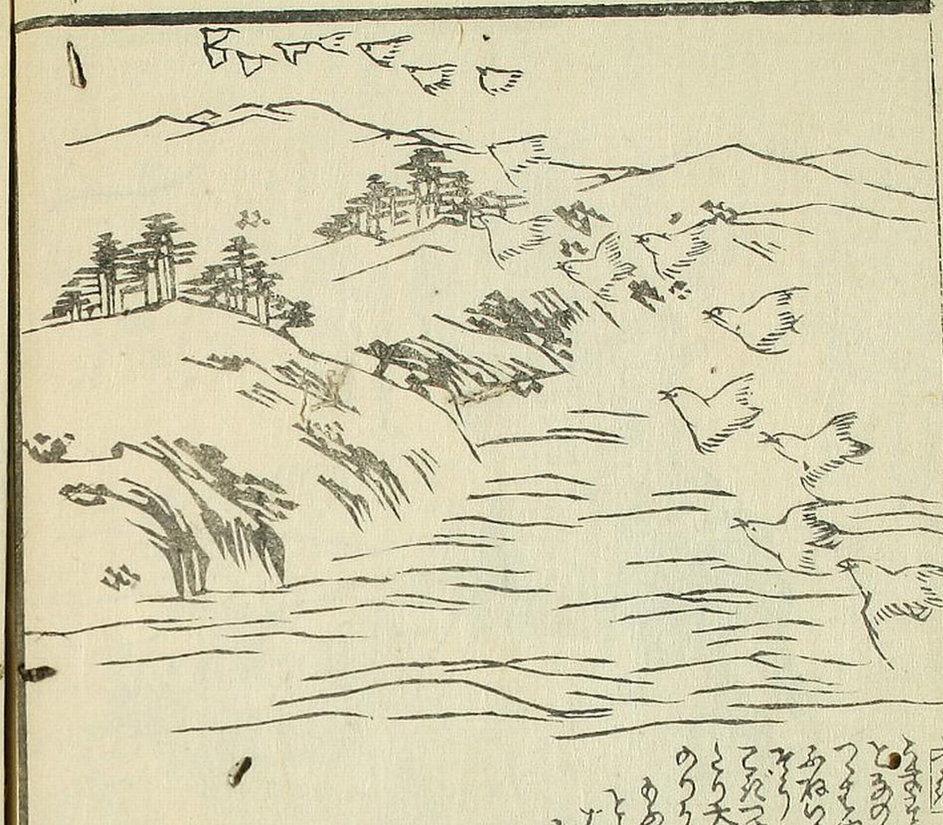





親

義士山村

二合半領



桃亭主人抄錄
梅堂國政畫

御届明治十四年三月十五日

厚化粧萬年嶋田 廿編 春水作 大尾國貞画

室町源氏胡蝶卷 三十編 種彦作 大尾國貞画

鼠祠通夜譚 十編 種彦作 大尾國貞画

童謡妙々車 三十編 種彦作 大尾國貞画

薄倖幼日記 三十編 春水作 大尾國貞画

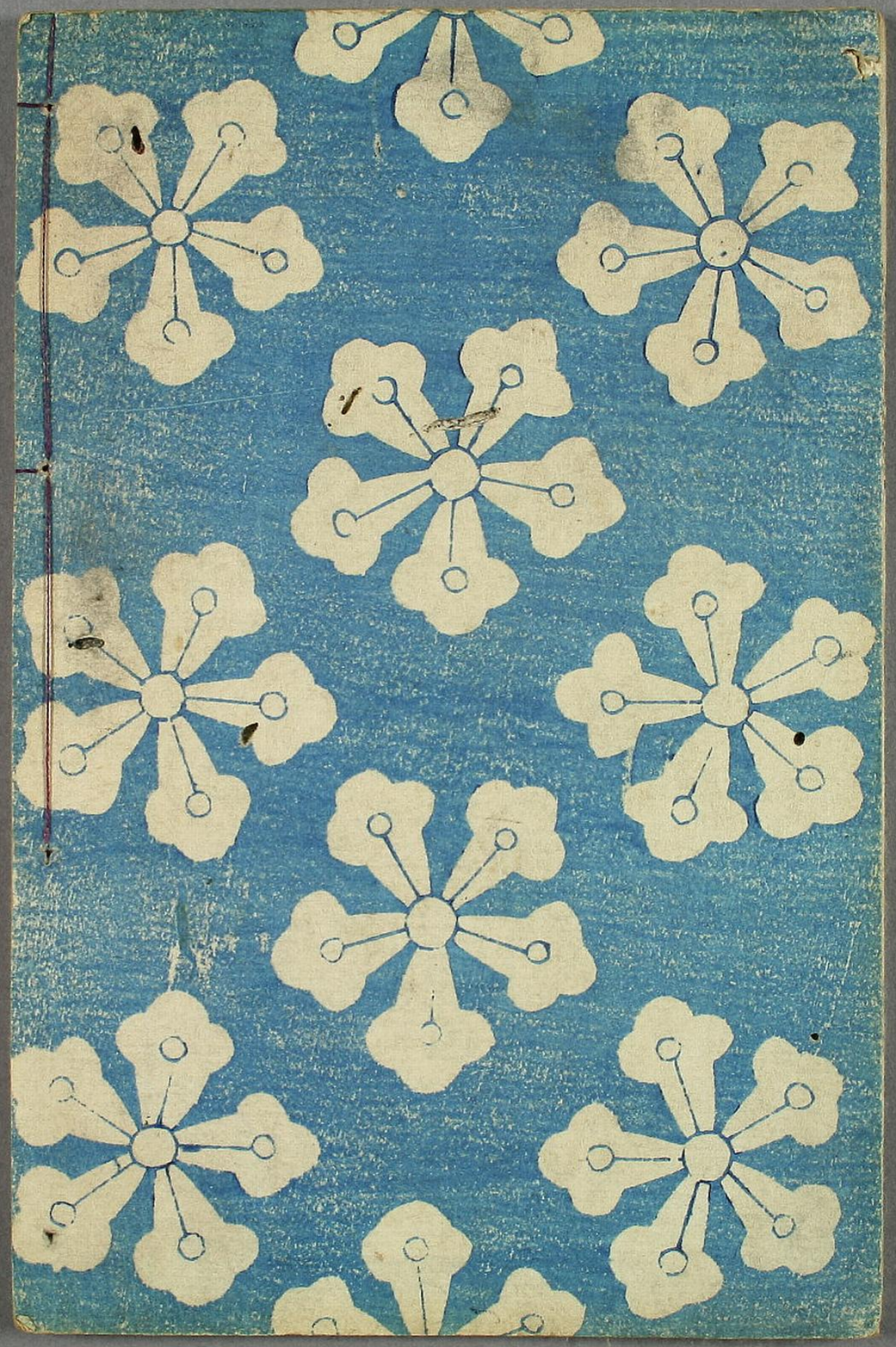
七姿葛飾譚 十五 種彦作 大尾國貞画

新昌九尾傳 廿編 春水作 大尾國貞画

筆海四國閑書 十五編 種彦作 大尾國貞画

月鶴墨画廻禰襠 廿編 種彦作 大尾國貞画

花封蓍玉章 十編 種彦作 大尾國貞画

芝尾愛宕下町四丁目四番地
編輯人 久保田彦作

京橋尾南傳馬町壹丁目二番地
出板人 林吉藏